

## スポーツツーリズムの効果とその持続性について

—徳島県三好市を事例に—

1230439 片山葉南

指導教員 前田和範

### 研究背景

近年、地方においてアウトドアスポーツツーリズムによる地域活性化や交流人口拡大が図られており、スポーツツーリズムを通じたまちづくりが期待されている。しかし、経済効果に関するデータは収集されているが社会効果・環境効果やその効果の持続性に関する研究は不足している。本研究では徳島県三好市を事例とし、ラフティングツーリズムによってまちづくりに与えられた影響や効果が本当に持続しているのか調査していく。

### 研究目的

本研究の目的は、三好市の現状について調査し、ラフティング世界選手権 2017(以下 WRC2017)開催による街への効果を経済・社会・環境の3つの観点から、スポーツツーリズムによる街への効果の持続可能性について明らかにすることであった。

### 調査・分析方法

本研究では、WRC2017開催当時から現在に至るまでの状況をよく知る三好市の職員および当時の大会関係者、ボランティア、競技者など5名に対するインタビュー調査を行った。質問項目は、WRC2017の効果が経済・社会・環境観点から持続しているかどうかを問うものであった。

### 分析結果

対象者へのインタビューの結果、WRC2017開催によって、経済効果としてはインフラの整備促進、ラフティング事業周辺の雇用の増加、社会効果としては地域住民の吉野川に対する認知度やイメージの向上、文化的発展、そして環境効果としては自然資源の保護に対する意識の向上や水質改善のための活動推進など、大会開催から5年ほどたった現在においても効果が持続されていることが明らかとなった。

### 考察・結論

インタビューの結果を総合的にみると、WRC2017による経済効果、社会効果、環境効果はそれぞれ全体的に持続されていることが分かった。スポーツイベントにおいて、競技者と観戦者、地域住民が盛んに交流できる環境を整えることが、社会効果を持続させるうえで重要になってくる。今後、さらにこれらの効果を持続させていくためには、街の自然資源の活用・保全と地域住民の協力による街づくりが求められると考えられる。